

2018 12/25

No.2081

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



平塚市寺田縄の県立花と緑のふれあいセンター「花菜（かな）ガーデン」で、季節外れのチューリップ。球根を植える前に冬のような低温の環境にしばらく置き、春が来たという“錯覚”で開花させた。



政経かながわ

2018 12/25 No.2081

contents

視点・点描

東京五輪へ次々進化

3

デモクラシーの現場から 第2回

北方領土交渉のDNA

首相執心にリスク

4

国際

パキスタン再建に奔走

元国民的スターの新首相

6

くらし2018

遺伝子検査で副作用予防へ

8

企業最前線

建設現場にIT積極導入

ウェアラブル端末で体調管理も

10

アジアの風

突然の首相解任で政局混迷

12

NNAアジア経済レポート

13

神奈川景気データファイル

14

神奈川景気データファイル

15

事務局だより

◇2019年1月定例講演会

2019年1月30日(水)

午後1時30分～3時

ホテルモントレ横浜3階「ピクトリア」

講師は富士通(株)常務理事、
首席エバンジェリストの中山五
輪男(なかやま・いわお)さん
演題は「人工知能(AI)とビジ
ネス新時代

【お知らせ】 神奈川政経懇話会では
ホームページ(www.kanagawa-
seikon.jp)に会員コーナーを設け
ました。新商品の紹介、地域貢
献活動、人事などジャンルを問わ
ずさまざまな情報を掲載します。
問い合わせは事務局 ☎045(226)
2121。

視点 点描



東京五輪へ次々進化

湘南モノレールの湘南江の島駅（藤沢市）が大規模な改修工事を終え、12月からテナント部分を除く全館の使用を始めた。写真。1年4カ月かけ、耐震補強とバリアフリー化を実現。2020年の東京五輪・パラリンピックを控え、増加するインバウンド（訪日外国人客）も呼び込もうと戦略を練る。湘南モノレールは大船駅と県内

有数の観光地・江の島近くまでの6・6キロを14分で結ぶ。レールに車両がぶら下がっている形態の懸垂式モノレールで、全国的にも珍しい。

1966（昭和41）年の設立当初から三菱重工業などの三菱グループが中心となつて運営していたが、事業の選別を進めるため15年に経営共創基盤傘下のみちのり

ホールディングスに売却された。それ以降の大規模な改善策を進めているのが異業種から転身した尾渡英生社長だ。

埼玉大を卒業後、総合商社の日商岩井（現双日）に入社。順調にキャリアを積む中、「違うフィールドで仕事をしてみたい」と54歳で退職し、新天地で社長を務めている。

就任1年足らずの16年6月からダイヤ改正し、特に平日夜の運行回数を増やした。この効果で、帰りはバスを利用していた人もモノレールに乗るようになった。

今年4月からは念願のICカー



ド（パスモ）を導入した。規模の小さな会社とはいえ、「当たり前」のことを当たり前にやっていたのかいとお客さまの支持は得られない」と、乗客ファースト（第一）をモットーに置く。

湘南江の島駅の改修工事は17年7月に着手。今年4月のエレベーター棟に加え、12月にはエスカレーター棟の地上階から5階まで全てのエスカレーターが使用可能に。駅の出入り口も、鎌倉口に加えて江の島口と藤沢口も利用できるようになった。

2年後の東京五輪ではセーリング会場となる江の島の玄関口として一新した同駅。増加が見込まれるインバウンドに向けた多言語の案内板も設けた。今後はハード面とともに、駅員らを含めたソフト面の充実が求められる。

（神奈川新聞社湘南・西湘総局長

佐藤 浩幸）